

令和7年度学校評価報告書

(※取組に関する学校自身による自己評価について、その適切さを学校評議員から評価いただいた結果)

1 本年度の重点目標

「高い志を持って主体的に学校生活に取り組みさせることで、生徒一人一人の可能性を伸ばし、自らの未来を切り拓いていくたくましい力を身に付け、地域を支え、地域の人々と共に生きることができる生徒を育成する」 (1) 社会で生きる学びを意識した学習指導 (2) 地域社会を担う市民として必要な資質の育成を目指した生徒指導 (3) 地域とともに生徒を育て、地域からの信頼を高める (4) 職務の基盤となるよりよい人生のために、教職員が安心して働ける環境を作る

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目 ■生徒の肯定的割合 ()内は昨年度 〔 〕内は昨年度比	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている。 ■90.0%(86.1%)[+3.9%]	B	本校の学習指導の根幹である「基礎学力の定着を図る」授業実践ができていますと判断できる。今後も「学び直し」や習熟度別の少人数授業を維持していく。また、より一層学力や特性に応じた「個別最適な学び」について、研究・実践する必要がある。	B	A
学校関係者評価委員会における意見	○個別指導の効果が上がり、進学等への意欲が向上している。 ○「読む」を重視した内容は理解できるが、「書く」の内容を充実してほしい。 ○勉強に対して苦手意識を持っている生徒や勉強を面倒だと感じている生徒にとって、いつ勉強が楽しいものになるか分からないので、これからも生徒としっかり向き合ってください。				
生徒指導	自分にとって、有意義な学校行事がある。 ■87.5%(77.8%)[+9.7%]	B	スポーツ大会や文化祭等の特別活動では、実行委員が企画運営に主体的に取り組み、参加する生徒も自己実現できたと考えられる。生徒が主体的に活動し、仮に失敗したとしても、「失敗は成功の素」の体験を生徒にさせたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	○今までの努力を認めた上で、一層の実績に期待する。 ○失敗は成功の素は良いことで、失敗の大切さを教えてほしい。 ○失敗を恐れる上での挑戦することの難しさ、それを乗り越えた先にある達成感や自己肯定感の上昇、これはぜひ学校にいるうちに学んだほうが良い。				
進路指導	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。 ■87.5%(86.1%)[+1.4%]	B	発達段階に応じた各年次の進路行事が、生徒に進路目標を設定させる良いきっかけになっている。企業見学や上級学校見学等、生徒のニーズにあった内容で企画・実践していきたい。また、NPO法人等外部団体の就労支援事業も積極的に活用する。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	○個人のニーズも把握の上、適切な指導をしている。 ○本人の意向を含んだ企業見学があれば良い。 ○肯定的割合が高いのは、先生方が生徒のそれぞれの将来に向き合ったことに対する結果だと思う。高校在学中に、社会に出るために必要な力を先生方が積極的につけてくれた。				
学校の特色作り	地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。 ■90.0%(86.1%)[+3.9%]	B	インターンシップやボランティア等の「学校外学修」では、河北地区だけではなく、石巻圏域との関りが深く、地域の教育資源を有効活用できている。「学校外学修」が単に「三修制」の手段ではなく、自己有用感や自己肯定感を感じられるものになっている。生徒の自己実現の場、飯野川校の魅力を伝える場にしていきたい。	B	A
学校関係者評価委員会における意見	○三修制に向けての努力を評価する。 ○石巻北高等学校本校の「とらまい」に、飯野川校の生徒が年に数回でもいいので、参加させてみてはどうか。 ○高校在学中に毎年インターンシップに参加すると、3回ないし4回も貴重な社会経験ができたことになる。生徒が進路先を決める際に役立っている。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 課題発見、自己解決型の授業実践	学校独自の調査で、1学期(7月)までは、左記の授業実践ができていたと考えられる。基礎基本の定着を図りながら、生徒に考えさせる場面を多く設け、1年間実践できる計画を立てる。
② 生徒のニーズにあった進路指導の実践	各年次における例年行っている進路行事に加え、少人数による企業見学や上級学校見学を行う。